

- ◆「SIAの理念」「プロとしての指導者の心得」「事業目的と計画の方針」について
 - ・SIAの理念 ⇒会員の行動規範となるもの
 - ・プロとしての指導者の心得 ⇒プロ意識を持って教師活動の際の規範となるもの
 - ・事業目的と計画の方針 ⇒協会が目指す方向と事業目的を達成するための主となる項目

- ◆SIAの組織としての前提
 - 1. プロスノースポーツ教師の団体
 - 2. 行動指針はSIAの理念
 - 3. 組織の目標は定款の事業目的

- ◆第39期事業計画の方針

SIAはプロスノースポーツ教師の集団であり、指導活動が原点である。今まで同様、プロとして「安全で満足度の高いレッスンをする」、「たくさんのお客様にスノースポーツの素晴らしさ、楽しさ、健康に良いことを伝える」ことが、協会の維持発展に、そしてスノースポーツの普及につながると考える。その為には、基盤となる活動の場である学校の存在が大変重要になる。会員一人一人がプロ意識を持ち、より質の向上を図ることで、学校経営全体が安定し、質の高いサービスを提供でき、集客を増やせればおのずと教師の士気が高まり、教師数にも反映する。又、スノースポーツの安全確保には公認学校の存在が不可欠である。39期は、38期に引き続き、協会の原点を大切に「プロスノースポーツ教師の集団」であるということをつまみ、次の4項目を事業計画の方針とする。

- 1. 収支の改善
- 2. プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり
- 3. 国際環境の変化に対応する取り組み
- 4. スノースポーツの普及

- ◆第39期事業計画の方針の具体的目標

- 1. 収支の改善
 - 単年度の収支を黒字にする
- 2. プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり
 - 1) ガバナンスが確立され、健全な財務体質の組織をつくる
 - 2) 会員がプロ意識を持って質の向上を常に心掛ける
 - 3) 会員が質に見合う待遇が得られる
 - 4) スノースポーツの素晴らしさ、楽しさ、健康に良い事を国民に告知する
 - 5) スノースポーツ普及を推進しているのがSIAであることを常に告知する
- 3. 国際環境の変化に対応する取り組み
 - スノースポーツの訪日観光(インバウンド)が増加している中で、国土交通省 観光庁、(一財)日本鋼索交通協会、(公社)日本プロスキー教師協会(SIA)、(公財)全日本スキー連盟(SAJ)において、三者協議の元、ワーキンググループを設置し、インバウンド対応を含めた健全なスノースポーツの発展を、行政や関係団体に対して、必要な陳情及び提言をして行き、共通のルールを構築しスノースポーツ発展に寄与して行く
 - 現状の問題点は、「外国語で指導できる会員が少ない」こと、「日本で活動しようとする外国人教師への歯止めがない」こと、「すでに独自で活動している外国人教師、学校が多数有る」こと等
 - 1) 日本で活動を希望する外国人教師への対応
 - 2) すでに独自で活動している外国人教師、学校と接点を持ち、個人はSIAへの入会、学校はSIAの公認校を目指すよう指導する
- 4. スノースポーツの普及

- 目標

- 1) 「安全で満足度の高いレッスンをする」、「お客様にスノースポーツの素晴らしさ、楽しさ、健康に良いことを伝える」等、公認学校での日常の学校活動が大切であることを公認学校に周知をはかる
- 2) 公認学校で取組めない分野を、協会全体の行事として、SIAらしさを発揮し、国民を対象に実施する

第39期総務部事業計画（案）

- 方針：①ガバナンスの強化
- ②財務体質の健全化
- ③国際化の推進
- ④支部との連携強化

<総務委員会>

- (1) ガバナンスの強化
 - ①啓蒙活動の強化
総会、理事会、研修会などすべての行事において、SIA 理念を唱和し啓蒙活動に努める
 - ②規約規程を遵守した協会運営と会員の活動
 - ③「プロスノースポーツ教師の集団」としての誇りと責任
安全及び指導法の向上を図る（安全指導のガイドブックの配布及びセミナー情報の告知）
 - ④スキー総合補償制度への加入推進
- (2) プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり
 - ①他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する
 - ②会員の夏期の仕事情報を収集・告知
- (3) スノースポーツの普及
 - ①一般愛好者向けの行事を広報部と連携して実施
- (4) 少子高齢化へ対応した協会運営
 - ①高齢会員の研修会義務緩和を実施する
 - ②スキー学校の継承を円滑に進める
- (5) 会員との連携強化
 - ①ホームページ等で会員に有効な情報を提供する
 - ②顧問・参加からご意見を戴く場を年に一度設ける
 - ③永年会員の表彰
- (6) 会員資格の整備
 - ①資格制度の見直しについて検討する
- (7) 50周年事業について
 - ①記念事業準備会で行事の詳細を決定する
 - ②記念誌発行＝広報部との連携

<財務委員会>

- (1) 財務体質の健全化
 - ①厳格な予算案作成
 - ②年会費の自動振替化の促進…自動振替化 100%を目指す
 - ③予算執行状況の早期確認と対応
・毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告
 - ④会費収入の増加…広報部と連携し、新規会員の増加（正会員・法人賛助会員・個人賛助会員）を目指す
 - ⑤個人賛助会員の会費を「寄付金」扱いに変更する

<国際委員会>

- (1) I S I A との関係強化
 - ① I S I A 総会、理事会に参加し加盟各国との交流、情報交換を行い、必要な情報を会員に伝達
 - ② S I A フェスティバルに外国チームを招聘し、講習会・講演会を実施する
 - ③環太平洋地域の親睦強化
- (2) 国際環境の急激な変化への対応
 - ①インバウンドへの取り組みを推進…基本英語ガイドの作成と WEB 掲載
 - ②外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み
 - ③外国人の入会について具体的に検討する

<支部委員会>

- (1) 支部長会議の開催
 - ①支部長会議関連のアンケート実施
各支部からの意見を検討して事業に反映
 - ②支部長の理事会傍聴
支部との関係強化を目的として、支部長会議と理事会傍聴を併せて実施
- (2) 本部支部間の連携強化
 - ①支部の事業計画・予算案の報告、中間報告、決算報告の徹底
 - ②支部事業に対して連携強化
 - ③支部のホームページの充実を図る
 - ④支部のエリアを再検討する

総務部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 外国研修会への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ I S I A開催行事に役員を派遣 ・ 海外研修補助金制度の継続実施
	2) 支部活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支部長会議の内容を検討して事業に反映（年1回） ・ 支部との関係強化を目的として、支部長会議と理事会傍聴を併せて実施 ・ 本部と支部の一体化…支部の事業計画・予算案の報告、中間報告、決算報告の徹底
2. スノースポーツ指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 保険加入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正会員・準会員に対する補償制度の実施（正会員スキー総合保障制度加入）
3. 我が国を代表して国際スキー教師連盟 (ISIA) へ加盟	1) 総会・大会への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ インタースキーへ派遣(2019.3 プルチリア・ハンボ・ホフ) ・ I S I A総会へ派遣(2018)
	2) 会議への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ I S I A理事会（年2回）への派遣
	3) I S I A加盟国との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ S I Aフェスティバルに外国チームを招聘し、講習会・講演会を実施する ・ 環太平洋地域の親睦強化 ・ 外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み ・ 外国人の入会について具体的に検討する
4. 目的を達成するための必要な事業	1) 啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガバナンスの強化 <ul style="list-style-type: none"> …規約規程を遵守した協会運営及び会員の活動 …総会、理事会、研修会などすべての行事において、SIA理念を唱和 …プロスノースポーツ教師の集団としての誇りと責任 …スキー総合補償制度への加入推進 ・ プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり <ul style="list-style-type: none"> …他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する …会員の夏期の仕事情報を収集・告知 ・ スノースポーツの普及 <ul style="list-style-type: none"> …一般愛好者向けの行事を広報部と連携して実施 ・ 少子高齢化へ対応した協会運営 <ul style="list-style-type: none"> …高齢会員の研修会義務緩和を実施する …スキー学校の継承を円滑に進める ・ 会員との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> …ホームページを活用し会員からの意見を取り入れる …顧問・参与からご意見を戴く場を年に一度設ける …永年会員の表彰 ・ 会員資格の整備 <ul style="list-style-type: none"> …準会員制度及び資格制度の見直しについて検討する ・ 50周年事業について <ul style="list-style-type: none"> …記念事業準備会で行事の詳細を決定する …記念誌発行＝広報部との連携
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会の開催 ・ 日本インタースキー委員会に委員を派遣 ・ 総務部会の開催
	3) 事業計画・予算編成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算会議の開催 ・ 事業計画案の作成
	4) 予算執行状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務体質の健全化 <ul style="list-style-type: none"> <厳格な予算案作成、年会費の自動振替の促進…自動振替化100%を目指す、予算執行状況の早期確認と対応、毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告、会費収入の増加、個人賛助会員の会費を「寄付金」扱いに変更>
	5) 会員の表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 永年在籍の会員に対し総会において協会として表彰する
	6) 教材の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンドへの取り組みを推進…基本英語ガイドの作成とWEB掲載 ・ 教育部と連携し、フェスティバル招聘国の技術動画を制作

第39期 教育部事業計画（案）

○方針：「会員の指導力・技術の向上」

<資格委員会>

- (1) スノースポーツ教師資格検定会
 - ① ステージⅠ・Ⅱ検定会を支部と連携して実施
 - ② ステージⅠ・Ⅱ検定会の試験のみフェスティバルで実施
 - ③ ステージⅢの実技検定会はフェスティバルのみ実施
 - ④ ステージⅡ・Ⅲ検定会の基礎理論講習を東京・代々木で12月5日（火）～7日（木）に実施
- (2) イグザミナー認定会
 - ① イグザミナー認定会をフェスティバルで実施
- (3) I S I Aカード取得事業（G S L・山岳安全講習）をフェスティバルで実施
- (4) 検定実施方法を見直す

<研修委員会>

- (1) スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業
 - ① イグザミナーによるテーマ伝達の講習会を各支部で実施
 - ② 指導力・技術向上を目的とした研修会を本部及び各支部で実施
- (2) 山岳スキー・オフピステ関連事業
 - ① I S I Aの山岳安全講習に対応した講習をフェスティバルで実施
 - ② 入門クラスの参加しやすい日帰りの研修会を春に2カ所で実施
 - ③ 登山ガイド(公益社団法人日本山岳ガイド協会)認定資格養成講習会の参加促進を図る
- (3) 語学力向上のための研修会
 - ① インバウンド対応のための語学研修会を本部及び各支部で実施
- (4) 他団体で行われている事業に参加
 - ① SBB(スキー・ビンディング・ブーツ取付け調整)認定整備技術者セミナー
 - ② プロスポーツ指導者連絡協議会主催「プロスポーツティーチングセミナー」
 - ③ 日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命講習」
 - ④ 公益財団法人日本体育協会主催研修会

<技術委員会>

- (1) スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成
 - ① 各種技術検定促進の動画を作成しホームページにアップする
 - ② 次期教程の2019年11月発行に向けて委員会を開催する（委員会4回開催）
- (2) デモンストレーター関連事業
 - ① フェスティバルでアルペンスキーの選考会をオープン参加で実施しデモを選考
※順位をインタースキー派遣デモ選考の参考とする
 - ② スノーボード・テレマークスキーの技術コンテストをオープン参加で実施
 - ③ 指導伝達テーマ及び技術発表のデモンストレーションをフェスティバルで実施
 - ④ デモンストレーターを活用した広報活動
- (3) デモンストレーター・イグザミナーの研鑽に努めるための事業を実施
 - ① イグザミナー教育に関する資料作成
 - ② デモンストレーター合宿を北海道で実施
 - ③ イグザミナー研修会を3カ所で実施
- (4) インタースキー派遣デモに対する合宿を開催

<障がい者スキー委員会>

- (1) 認定会と質向上を図る為の講習会
 - ① 認定会と資格継続を、シーズンはじめとフェスティバルで実施
 - ② 雪上講習会を実施
 - ③ 障がい者スキー指導講習会に役員を派遣

教育部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 各種検定会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージⅠ検定会の実施（平成29.12～各支部） ・ステージⅠ検定のみ実施（平成30.4.3～安比高原） ・ステージⅡ基礎理論検定の実施（平成29.12.5～7 NYC） ・ステージⅡ実技検定の実施（平成30.2～各支部） ・ステージⅡ実技検定の検定のみ実施（平成30.4.3～安比高原） ・ステージⅢ基礎理論検定の実施（平成29.12.5～7 NYC） ・ステージⅢ実技検定の実施（平成30.4.9～12 安比高原）
	2) 検定員の養成と認定	<ul style="list-style-type: none"> ・イグザミナー（新規・継続）認定会の実施（平成30.4.2～3 安比高原） ・I S I Aカード取得事業（GSL）の実施（平成30.4.8 安比高原） ・障がい者スキー教師認定会／日本障がい者スポーツ協会初級スポーツ指導員資格取得（平成29.12 志賀高原／平成30.4.9～12 安比高原） ・登山ガイド認定資格養成講習会 「スキー指導者のための登山ガイド」資格取得研修会への参加促進
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 各種研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の質向上を図る為、他団体で行われている事業に参加 （S-B-B認定整備技術者セミナー：平成29.10月／平成30.8月.9月） （プロスポーツティーチングセミナー：平成29.11.21 NYC） （日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命救急」） （公益財団法人日本体育協会主催研修会） ・スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業 （イグザミナーによるテーマ伝達講習会：平成29.12～平成30.3 各支部） （指導力・技術向上目的とした講習会：本部実施は平成29.12 高鷲スノーパーク、支部実施は平成29.12～平成30.3） （デモ選強化セミナー：平成30.4.4～5 安比高原） ・山岳スキー・オフピステ関連事業 （ISIA山岳安全講習会：平成30.4.9～10 安比高原） （入門クラスの講習会：平成30.5 乗鞍、月山） ・語学力向上のための研修会 （外国語講習会：年間を通して 東京&各支部） （外国語セミナー＜雪上含む＞：平成30.4.9～10 安比高原）
3. スノースポーツの普及・発展のため競技会の開催	1) 競技会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・会員親善GSL大会（ISIAカード取得事業）の開催（平成30.4.8 安比高原） ・アルペンスキーデモンストレーター選考会をオープン参加で実施 （平成30.4.6～7 安比高原） ・マスターズスキー教師選手権大会をオープン参加で実施 （平成30.4.6～7 安比高原） ・スノーボード・テレマークスキーの技術コンテストをオープン参加で実施 （平成30.4.8 安比高原）
4. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) SOMの研究・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーター合宿（平成29.11.26～28 札幌国際スキー場） ・イグザミナー合宿（平成29.12.28～30 札幌国際、平成29.12 志賀高原&山形蔵王） ・インタースキー派遣デモンストレーター強化合宿を実施 ・指導伝達テーマのデモンストレーションをフェスティバルで実施（平成30.4.9） ・デモンストレーターを活用した広報活動
5. スノースポーツに関する刊行物の発行及び映像等教材の製作	1) 教育部に係わる教材	<ul style="list-style-type: none"> ・スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成 （各種技術検定促進の動画を作成しホームページにアップ） （新教程の2019年11月発行に向けて委員会を4回開催）
6. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議等への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ指導者連絡協議会へ役員派遣 ・障害者スキー連盟へ理事派遣 ・岩手県障がい者関係行事へ役員派遣
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部会、各委員会の開催

第39期 学校部事業計画（案）

○方針：①公認学校運営の向上と会員の働きやすい環境づくり

- ②安全指導の強化とスノースポーツの普及
- ③調査資料の収集と有効活用
- ④各種技術検定の普及強化

<学校委員会>

(1) 学校長研修会の開催

- ①健全な学校運営を目的として年一回開催する。今期はフェスティバルに於いて実施
※来期は東京で実施（2018. 11）

(2) 学校運営への協力

- ①公認校の継続および新規開校の支援
- ②入校者を対象に使用用具等の調査を実施し、賛助会員と公認校の関連強化を図る
- ③労災、賃金の調査と情報提供
- ④有資格者によるレッスンの徹底を目指し、制度改革を検討する
- ⑤学校部通信の発信

(3) 運営管理

- ①移動教室届け提出の義務化を徹底

(4) 公認スキー学校での技術検定の普及強化

- ①各種技術検定の推進
 - ・「ジュニア国際スキー技術検定」促進のためのポスター・ハンドブックを制作・配布
 - ・各種国際スキー技術検定促進動画の制作
 - ・各種国際スキー技術検定のデモによる見本の滑りをホームページにアップする
- ②技術検定の普及上位校の表彰
 - ・技術検定の普及に寄与した上位校を学校長研修会において表彰する
- ③検定促進の小冊子「挑戦!合格の道」日本語版・外国語版を増刷（受験申込～認定までの流れを盛り込む）、希望校へ配布
- ④技術検定用紙および検定報告書は電子申告にも対応できるようにする

<安全委員会>

(1) 安全指導の徹底

- ①「安全指導のガイドブック」を制作し会員に配布
- ②安全用具（ヘルメット・プロテクター類等）の積極的な活用と普及（JSP ポスター配布等）
- ③スキー学校賠償責任保険への加入
- ④受講生の傷害保険加入を義務化する（40期の申請より実施）
- ⑤全国スキー安全対策協議会との連携

学校部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・公認スキー学校における一般愛好者対象の、各種技術検定の推進 (国際スキー技術検定・ジュニア・シニア・スノーボード・テレマークスキー・SIAメダル・ラングラウフ距離認定の技術検定の普及強化) (国際スキー技術検定最高資格「スーパーゴールド検定」の普及／広報部と連携して実施) (各種国際スキー技術検定促進動画<教育部制作>の活用) ・「ジュニア国際スキー技術検定」促進のためのポスター・ハンドブックを制作・配布 ・教育部と協力して各種国際スキー技術検定のデモによる見本の滑りをホームページにアップする ・技術検定の普及上位校の表彰 (技術検定の普及に寄与した上位校を校長研修会で表彰) ・検定促進の小冊子「挑戦!合格への道」日本語版・外国語版を増刷(受検申込～認定までの流れを盛り込む)、希望校へ配布 ・技術検定用紙および検定報告書は電子申告にも対応できるようにするジに掲載する
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 教育研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・公認スキー学校長研修会の実施 (平成30.4.8～10 安比高原) (健全な学校運営を目的として実施)
3. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 学校運営への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・公認校の継続および新規開校の支援 ・入校者を対象に使用用具等の調査を実施し、賛助会員と公認校の関連強化を図る ・労災、賃金の調査と情報提供 ・有資格者によるレッスンの徹底を目指し、制度改革を検討する ・学校部通信の発信震災による様々な影響への考慮と対応
	2) 運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室届け提出の義務化を徹底
	3) 安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全指導のガイドブック」増刷し会員に配布 ・安全用具(ヘルメット・プロテクター類等)の積極的な活用と普及(JSPポスター配布等) ・スキー学校賠償責任保険への加入 ・受講生の傷害保険加入を義務化する(40期の申請より実施) ・全国スキー安全対策協議会との連携
	4) 保険の加入	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー学校賠償責任保険に加入
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部会議の開催
	2) 関連団体への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ用品工業協会・日本スポーツ産業振興協会等スキー製品に関する各機関に協力して活動する

第39期 広報部事業計画（案）

- 方針 ①一般愛好者へのスノースポーツの普及
②広報活動の推進
③震災復興に対する対応

<普及委員会>

- (1)「スノースポーツの活性化を図る事業」の実施
①一般愛好者を対象に、デモによる講習会を3月に実施
②一般愛好者が参加できるイベントをスノースポーツ専門誌及びWEB上に紹介して普及を図る
③全国の小中高生を対象にしたジュニア・技術コンテストを4月のフェスティバルで実施
④健康増進の推奨事業として
・「歩くスキー(ラングラウフスキー)」を使った「スキーオリエンテーリング」のイベントを、公益社団法人日本オリエンテーリング協会と共催で4月のフェスティバルに実施
- (2)S I A関連活動の紹介と普及
①S I A関連の様々な活動を、スキー専門誌及びWEB上に紹介して普及を図る
- (3)その他事業活動を推進する為の活動
①「スキーの日」(1月12日)ミニ式典と特別講習会等の事業を実施
②「クリーンキャンペーン」を公認校のあるスキー場とフェスティバル会場で清掃活動を実施
③地球温暖化防止…会員が出来る身近な活動を推進「Fun to Share 気候変動キャンペーン」へ参加
④アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施
⑤被災者の子供達へのレッスンを支援(南東北支部)
被災地の復興を応援するため、応援メッセージを公認学校のパンフレットとホームページ、協会の印刷物とホームページなどに掲載する

<広報委員会>

- (1)会員及び一般向けに協会の活動情報を公開するため、機関誌の制作
①機関誌「S I Aニュース」を年3回(10月、1月、6月)発行
②協会の活動状況、行事予定、競技会結果、最新情報等を、ホームページ及びFacebookで随時発信
③S I A製作物(ポスター)デザインを会員及び一般より公募
- (2)一般愛好者に対し、事業の広報・宣伝及び実施事業等の促進
①一般愛好者の事業参加を促進するため、S I Aの理念、事業計画に基づき、スキー専門誌等にタイアップ広告・宣伝記事を掲載
- (3)賛助会員・プレスへの対応
①関係強化のため懇談会を開催し、事業報告・予算・事業計画を発表する(11月)
②新規入会の促進
③フェスティバル会場に賛助会員の展示ブースを設置し販売促進につなげる
④継続と定着のために意見交換会を開催し交流を図る(4月)
⑤一般愛好者の個人賛助会員への入会を推進…個人賛助会員をS I Aニュースで紹介、フェスティバルオリジナルTシャツの贈呈、S I Aニュースの送付、各種イベントの案内送付
⑥賛助会員主催の展示会場においてS I Aブースを設置し、情報発信並びにグッズの販売を行う
- (4)マーケティングの実施
①ホームページの充実をはかり、様々なコンテンツを拡張し、協会の認知を広める発信をする
②様々な協会事業の記録写真を、WEB上で発信及び販売を促進して更なる認知を図る
③名称変更にとまじり、オフィシャルグッズ(デモウェア)等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用して、協会のイメージを高めPR活動を図る

<物 販>

スキーをはじめとするスノースポーツの各技術に関する教程本、DVD等の教材並びにその他公益目的事業に関連する物品の製作・仕入れ、販売

- (1)会員及び一般愛好者向けの教程本、DVD等の教材並びにワッペン、ネームプレート、オリジナルグッズ等の製作・仕入れ、販売
①教程「S I A公式スキー&スノーボードメソッド」を販売
②技術単行本「トッププロが教えるスキーの基本」「オーストリア教程」を販売
③「スノーボードティーチングブック」の改訂版を販売(会員対象)
④S I Aエンブレムワッペン(スキーウェア用・ブレザー用)を製作・販売(会員対象)
⑤公認スキー学校所属の会員に対し、ネームプレートを受注製作・販売(会員対象)
⑥S I Aの定番Tシャツとフェスティバル記念Tシャツを製作・販売
⑦必要と思われるオリジナルグッズを製作・販売
⑧その他、在庫している物品を継続販売
⑨WEB上にてショッピングサイトを設置

広報部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> 一般愛好者を対象に、デモによる講習・技術検定会を3月に開催 「SIA デモレッスン&メダルキャンプ」(平成30.3.10~11 志賀高原・一の瀬)
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 一般愛好者対象の各種講習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 一般愛好者を対象に、デモによる講習会を3月に開催 「SIA デモレッスン&メダルキャンプ」(平成30.3.10~11 志賀高原・一の瀬) 健康増進の推奨事業として「スキーオリエンテーリング」のイベントを、公益社団法人日本オリエンテーリング協会と共催で開催(平成30.4.1 安比高原)
3. スノースポーツの普及・発展のため競技会の開催	1) 青少年対象の競技会の開催	「ジュニア技術コンテスト(小中学・高校生対象)」(平成30.4.1 安比高原)
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 機関誌「SIAニュース」を年3回(10月、1月、6月)発行 SIA概要増刷 協会の活動状況、行事予定、競技会結果、最新情報を、ホームページ・Facebookで随時発信 SIA 製作物(ポスター)デザインを会員及び一般より公募 一般愛好者の事業参加を促進するため、SIAの理念、事業計画に基づき、スキー専門誌等にタイアップ広告・宣伝記事を掲載
	2) 賛助会員・プレスとの協力	<ul style="list-style-type: none"> SIA 賛助会員・プレスとの懇談会の開催(平成29.11.17 ホテルインターコンチネタル) 賛助会員新規入会の促進(法人・個人) フェスティバル会場に賛助会員の展示ブースを設置し販売促進につなげる 賛助会員の継続と定着のため交流を図る(平成30.4.9 ホテル安比グランド) 一般愛好者の個人賛助会員への入会を推進…フェスティバルオリジナルTシャツの贈呈、SIA ニュースの送付、各種イベントの案内送付 賛助会員主催の展示会場においてSIA ブースを設置し、情報発信並びにグッズの販売を行う
	3) 社会への貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 「スキーの日」(1月12日)は継続してミニ式典と特別講習会等の事業を実施 「クリーンキャンペーン」を継続して実施する。公認校のあるスキー場とフェスティバル会場で清掃活動を実施 地球温暖化防止…会員が出来る身近な活動を推進、～Fun to Share 気候変動キャンペーンに参加 チャリティーイベント開催 アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施(会員親善GSL、チャリティーゴルフコンペ等の実施) 被災者の子供達へのレッスンを支援。(南東北支部主催) 被災地の復興を応援するため、応援メッセージを公認学校のパンフレットとホームページ、協会の印刷物とホームページなどに掲載
	4) マーケティング事業	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの充実をはかり、様々なコンテンツを拡張し、協会の認知を広める発信をする 様々な協会事業の記録写真を、WEB上で発信及び販売を促進して更なる認知を図る 名称変更にもない、オフィシャルグッズ(デモウェア)等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用して、協会のイメージを高めPR活動を図る
	5) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> 広報部会議の開催
	6) 物販	<ul style="list-style-type: none"> 教程「SIA公式スキー&スノーボードメソッド」を販売 技術単行本「もう一度見直そうスキーの基本」「オーストリア教程」を販売 「スノーボードティーチングブック」の改訂版を販売(会員対象) SIAエンブレムワッペン(スキーウェア用・ブレザー用)を製作・販売(会員対象) 公認スキー学校所属の会員に対し、ネームプレートを受注製作・販売(会員対象) SIAの定番Tシャツとフェスティバル記念Tシャツを製作・販売 必要と思われるオリジナルグッズを製作・販売 その他、在庫している物品を継続販売 WEB上にてショッピングサイトを設置